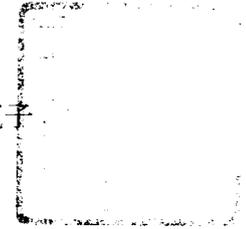


認 定 書

国住指第1421号
平成13年11月8日

有限会社アダチ技研
代表取締役 齋藤辰吉 様

国土交通大臣 林 寛子



下記の構造方法又は建築材料については、建築基準法第68条の26第1項（同法88条第1項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法施行令第1条第五号（準不燃材料）の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号
QM-9005
2. 認定をした構造方法又は建築材料の名称
アミノアルギド樹脂系塗装・天然木単板張／両面単板張／石綿セメントけい酸カルシウム板
3. 認定をした構造方法又は建築材料の内容
別添の通り

認定番号	準不燃(個)第2427号	認定年月日：昭和52年6月21日 再認定：昭61.10.16住指発320
品目名	両面単板張り石綿セメントけい酸カルシウム板(化粧)	申請者名：有 アダチ技研 埼玉県越谷市南越谷5-24-3 TEL:0489-87-0131 所在地変更：平8-7-3
商品名	〈アダチ準フネンアスウッド FV〉	工場名：館林工場 群馬県館林市羽附旭町1143 TEL:0276-75-0633 工場名変更：平2.9.11住指発625

- 主たる用途 建築物の壁又は天井
- 試験機関名 農林水産省林業試験場 受託番号 49試研763号
財団法人日本建築総合試験所 受託番号 III E-84-42

3. 製品の形状、寸法等

- 形状 平板
- 表面形状 平滑
- 厚さ(t)(mm) 5.3±0.3
- 大きさ(mm) 910×1,820
1,210×2,420
(+2、-0)
- 比重 0.81±0.07
- 重量(kg/m²) 4.3±0.4
- 含水率(%) 14以下

4. 防火処理の概要

リン酸塩系の難燃薬剤で1㎡当り40g(個)以上含浸するように処理した単板を石綿セメントけい酸カルシウム板(3.0mm)の両面にフェノール変性酢酸ビニル系樹脂接着剤(固形量150g/m²)で熱貼着した後、アミノ酢酸ビニル系樹脂接着剤(固形量40g/m²)で天然木単板(0.3mm)を熱貼着してアミノアルキッド樹脂塗料(固形量30g/m²)で塗装する。

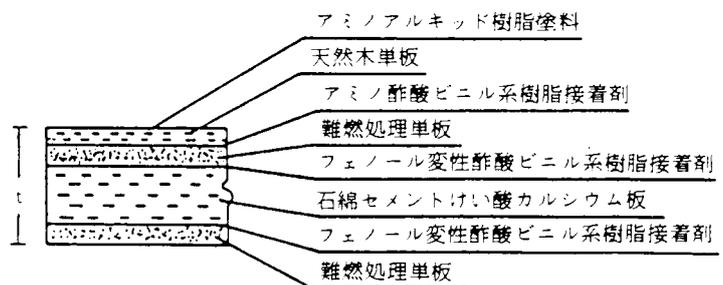
5. 構成(組成)、断面図

1. 表面化粧

- アミノアルキッド樹脂塗料
(固形量30g/m²)
- 天然木単板 (0.3mm、重量165g/m²)

2. 接着剤

- アミノ酢酸ビニル系樹脂接着剤
(固形量40g/m²)



耐火四四三号

(3) 基 材

両面単板張り石綿セメントけい酸カルシウム板 厚さ5.0mm

① 難燃処理単板

厚さ1.0mm、重量600g/m²

(りん酸塩系難燃薬剤を40g/m²(固)以上含浸した単板)

② 接着剤

フェノール変性酢酸ビニル系樹脂接着剤 75g/m²(固)

③ 芯 材

石綿セメントけい酸カルシウム板 厚さ3.0mm

(組成 石綿75%、セメント10%、けい砂15%)

④ 接着剤

フェノール変性酢酸ビニル系樹脂接着剤 75g/m²(固)

⑤ 難燃処理単板

厚さ1.0mm、重量600g/m²

(りん酸塩系難燃薬剤を40g/m²(固)以上含浸した単板)

6. 施工仕様

施工は建設大臣官房官庁営繕部監修「建築工事共通仕様書」第12章木工事第7節壁及び天井下地、第14章金属工事第4節軽量鉄骨天井下地及び同章第5節軽量鉄骨壁下地により行う。

耐火一五二号

(1) 下 地

間柱、胴縁及び野縁の間隔は455mm以下とし、平滑に組上げる。

但し、壁は難燃合板又は石こうボード(JIS A 6901)で下張りする。

(2) 取 付

(イ) 釘打ち工法

クロームメッキ釘

(L=板厚の2.5倍)

使用し、留付け位置

は板端より10mm以

上内側とし、留め

付け間隔は右表の数

値以下とする。

下 地 施 工 個 所	留 付 間 隔 (mm)		備 考
	周 辺 部	中 央 部	
木 造 天 井	90	120	釘 の 場 合
壁	100	150	
軽 量 鉄 骨 天 井	150	200	小 ね じ の 類 の 場 合
壁	200	300	

建設大臣官房官庁営繕部監修「建築工事共通仕様書」

(ロ) 接着工法(壁のみ)

主として下地張りの上に取り付ける場合に行うもので、酢ビ系、ゴム系又はエポキシ系の接着剤100~170g/m²(固)を300~400mm間隔で带状に下地材に塗布し、養生する。

(ハ) 釘打、接着併用法

(イ)と(ロ)の工法を併用する。